

糖尿病治療の最前線

合併症「トランカル ニューロパチー」とは

きわめて珍しい神経障害を合併したRさんのケース



担当医 久保 明先生

医学博士
糖尿病内分泌専門医
東海大学医学部教授

患者氏名	R・N様	年齢	56歳	性別	男性	現病歴	糖尿病、神経障害
------	------	----	-----	----	----	-----	----------

糖 尿病の3大合併症のひとつに、糖尿病性神経障害があります。が、今回は、そのなかでもたいへん珍しい患者さんの例をご紹介します。う。「トランカルニューロパチー」という神経障害を発症された方のお話です。

Rさんが初めて私のクリニックに來られたのは、10年ほど前。すでに糖尿病を患って数年が経っており、ヘモグロビンA1cは7%前後で推移しておられました。

そんなRさんが、「胸のあたりがピリピリする」と違和感を訴えてこられたのです。私はすぐに心臓の疾患を疑いました。糖尿病の患者さんにとって、心臓病は発症リスクの高い病気です。しかし、調べてもその兆候はまったく見られませんでした。

その後、考えられるあらゆる診察をしました。そして調べていくうちにわかったのが、「トランカルニュー

ロパチー」だったのです。これは体幹性の神経障害で、胸腹部に痛みやしびれをきたします。正直、とても驚きました。これまで1万人以上の患者さんを診てきましたが、この病気を合併した方と出会ったのは、Rさんが初めてでしたから。

通常、糖尿病性の神経障害は、大きく分けて末梢神経障害、単一性神経障害、自律神経障害の3つが、全体の9割以上を占めます。これらの治療法は薬物療法が一般的ですが、「トランカルニューロパチー」の場合は、治療薬が確立していないため、今のところ、血糖管理以外に大きな治療効果は期待できないのです。幸いRさんは、良好な血糖コントロールの維持に努められた結果、少しずつ症状が緩和しつつあります。

糖尿病の症例は数多く診てきましたが、私自身、まだ学ぶべきことの多さを痛感させられたケースでした。